

第3回 沖縄県で開催する国スポ・全スポに関する懇話会
議事要旨

日 時：令和6年9月25日（水）10:00～12:00

場 所：県庁11階第1会議室

出席者：宮城委員（座長）、平良委員、親川委員、荷川取委員、新垣委員、
澗辺委員、【代理】OCVB 真鳥専務、山入端委員、【代理】沖身協 運天
常務

- 次 第：1. 開会
2. 審議事項
（1）提言書（第2校）について
（2）その他意見交換
3. 閉会

議事要旨

※次第の1、3については省略。

2. 審議事項

- (1) 資料1及び資料2に沿って、事務局から説明を行い、その後意見交換を行った。委員意見は以下のとおり。

(委員)

【P5の2行目4-(5) 創意工夫による効率的な運営】

- ・地域や企業と連携していくという記載はあるが、「官民一体となった」という文言をキーワードとして入れる必要がないか。

→（事務局）文言を再度検討し、修正内容を座長と調整させてもらいたい。

【P3の18行目3-(1)開催にかかる人的・財政的負担】

- ・提言書のまとめ方として、「という議論があった」で終わって良いのか。「～を目指すこと」などのように、提言になっている必要があるのでは。

→（事務局）文言を再度検討し、修正内容を座長と調整させてもらいたい。

(委員)

【P1の19行目1-(2)スポーツを「する、みる、ささえる…」全ての人材の育成に資する】

- ・「満たされる幸福感」という表現が少し気になる。支え合い、人と繋がることにより「生まれる」幸福感といった表現がしっくりくるのでは。
- （事務局）そのとおりに修正する。

（委員）

【P3の21行目3-(2)県民の生活からかけ離れた競技者だけのものとなっていないか】

- ・海邦国体の際には盛り上がりがあったが、現在では以前のような状況に至っていないという文言について、いつ頃を起点としているのか。海邦国体の時であっても、10年前から盛り上がっていたわけではなく、直前になってから盛り上がってきたと記憶している。
- （事務局）この文章の趣旨としては、沖縄県だけの事ではなく、全国的に2巡目の開催にあたっては1巡目程の国民の注目を得ているわけではないという趣旨である。委員の意見を踏まえて、「全国的に」などの文言を追加するなど、検討したい。
- （委員）ここの記載に関しては、もっと前向きな表現の方が良いと思う。
- （事務局）文言を再度検討し、修正内容を座長と調整させてもらいたい。

（委員）

【P2の10行目1-(5)障害者や高齢者にも優しいまちづくりの推進】

- ・「障害のある方に限らず」という表現が少し気になる。沖縄県の条例（沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例）との整合性を図るためにも、「障害のある人もない人も」という記載にしてはどうか。障害のある人も高齢者になるという視点を持つ必要がある。
- （事務局）そのとおりに修正する。

【P7 8行目5-(4)-③ 審判員や選手を支える人材の育成について】

- ・理学療法士など、選手を安全・健康管理面で支える人材の育成について記載していることはとても良いと思う。障害者スポーツにおいても重要である。

（委員）

【P5 31 行目 5-(2) - ①超高齢化社会を踏まえたバリアフリー化の推進】

- ・上記の運天常務の意見に関連して、ここにも「障害者だけではなく」という文言があるので統一して修正した方が良い。
- （事務局）そのとおりに修正する。

【P5 19 行目 5-(1) - ②学校・大学等との連携】

- ・子ども達に「教える機会」ではなく、「伝える機会」とした方が良いのでは。（教えるという少し強制的な印象）
- （事務局）そのとおり修正する。

【P2 29 行目 2-(2)平和とスポーツの親和性を全国に発信】

- ・前回の意見で「国スポ」のみの記載ではなく「国スポ・全スポ」とセットでという意見があったが、P2 29 行目にまだ「国スポ」のみの記載がある。
- （委員）P3-10 行目にも同様に「国スポ」のみとなっている。
- （事務局）確認漏れで大変申し訳ない。そのとおり修正する。

（委員）

【P5 17 行目 5-(1) - ② 学校・大学等との連携】

- ・先ほどの荷川取委員の意見に関連して、「スポーツで課題を解決できる」と断言した記載になっているが、解決できるか、どのように解決できるかを「考える機会」を与えることが重要であると思う。そうして得られる若い世代の意見や考え方を実際に取り入れていく仕組みがあると、より県民が参画しやすい大会となるのではないか。
- （事務局）ご意見を踏まえて、修正案を検討する。

【P6 16 行 5-(3) - ①学校部活動の地域移行の動向を踏まえた競技力向上】

- ・「子ども達のスポーツ活動を地域で支える環境を整える」とあるが、支えるだけでなく、移行した後に地域で展開していくことが重要である。「地域で支え、展開する環境」という表現にしてはどうか。
- （事務局）文言を再度検討し、修正内容を座長と調整させてもらいたい。

（委員）

【P7 8 行目 5-(4) - ②審判員や選手を支える人材の育成について】

- ・「メディカル・コンディショニング面で支える専門人材」という文言について、医療の分野のライセンスを有する専門人材に限定しているように捉えられることも懸念されるため、「スポーツ医科学的側面で支える専門人材」とした方が良いと思う。
- （事務局）そのとおりに修正する。

【提言書全体として】

- ・変化の激しい昨今の社会環境や、3 巡目見直しの議論の動向なども踏まえて、「変化に柔軟に対応していく」という視点をどこかに追記してはどうか。
- （事務局）P5 5 行目に記載している内容で良いか。
- （委員）その内容でよい。

【PFI、Park-PFI について】

- ・事務局から内容を説明して欲しい。
- （事務局から説明）
- （委員）基本的には、PFI などの民間を活用した公共施設整備は賛成であるが、国スポにかかる施設整備に関しては、開催の時まで県や市町村が考える意向や方針が一貫できるのか、若干懸念がある。民間活力を生かした施設整備という方向性については異論ない。

（委員）

- 【P2 32 行目 2-(3) 恵まれた自然、温暖な気候、特色ある文化など、沖縄のポテンシャルを活かしたスポーツコンベンションの推進】
- ・おもてなしを行うだけでなく、そこで満足度を高めることが重要である。文章の中に「満足度を高める」という言葉を入れて欲しい。
- （事務局）文言を検討し、修正内容を座長と調整させてもらいたい。

（座長総括）

- ・それぞれの立場でご意見をいただいたおかげで網羅的に提言書をまとめることができた。
- ・前回国体から約 50 年が経過して、これまでの国体は成績至上主義、成果主義的なところが求められていたが、これからの大会は、そこに至るまでのプロセスの内容、取組に目を向けられている。
- ・流動的で変化にとんだ社会に対応するかたちで、柔軟に対応していくが重要である。（アスリートファーストからアスリートセンタードにシフ

トしていることなど)

- 国スポと全スポをセットで実施することは非常に価値がある。全スポに対応していくことが、県民の共生社会への理解を深めるとともに、沖縄県の観光や生活環境の向上にもメリットがあるということがわかり、良い形で提言書がまとまったと思う。
- 委員の皆様のご協力に感謝したい。

以上